

◎景気ウォッチャー調査[2023年8月]

2023年8月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を0.8ポイント上回る53.5となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が減少し、「制限のないお盆で人流が回復し、来客数がコロナ禍前の状況まで戻ってきている。」(コンビニ)、「G7広島サミットの影響で、客単価が大幅に上昇している。」(高級レストラン)等の理由から、「良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を2.2ポイント上回る53.7となった。

企業動向関連は、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「ガソリン価格の高止まり等により、物流費への影響が懸念される。」(化学工業)、「当社はまだ受注があるが、同業他社では仕事量が減少しており、中には帰休をしている会社もある。」(金属製品製造業)等の理由から、「やや悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を7.3ポイント下回る49.3となった。

雇用関連は、「人材紹介業において、求職者からの問合せ数が前月比174%、登録数は前月比121%と増加している。」(民間職業紹介機関)、「新規求人数は前年比で4.9%増加、有効求人数も前年比で0.3%増加しており、市場に雇用不足感があるといえる。中でも卸・小売業や建物サービス業が大幅に増加しており、人流の活性化がみられる。」(職業安定所)等の理由から、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を8.0ポイント上回る60.9となった。

	8月	7月	前月差
合計	53.5	52.7	0.8
家計動向関連	53.7	51.5	2.2
企業動向関連	49.3	56.6	-7.3
雇用関連 (参考値)	60.9	52.9	8.0

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を5.5ポイント下回る49.4となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「節約により、1人当たりの買上点数の前年割れが続く。」(スーパー)、「物価が上昇し、消費が冷え込むなど、景気が良くなる要素がない。」(一般レストラン)等の理由から、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を6.2ポイント下回る49.4となった。

企業動向関連は、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「物価上昇、税負担の増加で景気はやや悪くなる。」(一般機械器具製造業)、「電子機器や印刷製品は生産調整の動きがあり、また、電子機器部品製造装置も設備需要が減速傾向にある。」(電気機械器具製造業)等の理由から、「やや悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を4.4ポイント下回る49.3となった。

雇用関連は、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「燃料費の高騰が長引いて出口がみえないことに加え、10月には最低賃金の大幅引上げが控えており、倒産事業所の増加や更なる採用抑制が懸念される。」(職業安定所)等の理由から、「やや悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を2.9ポイント下回る50.0となった。

	8月	7月	前月差
合計	49.4	54.9	-5.5
家計動向関連	49.4	55.6	-6.2
企業動向関連	49.3	53.7	-4.4
雇用関連 (参考値)	50.0	52.9	-2.9